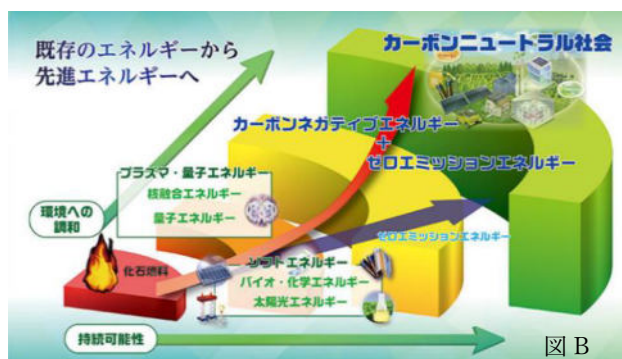


## (その2)エネルギー理工学研究所って どんなところ?の回答



写真 A

エネルギー理工学研究所 (IAE) のルーツは、戦時色の強い 1941 年京大本部構内に付置研究所として発足した工学研究所にさかのぼります。設立当初の工学研究所は物理工学、化学工学、構造工学、溶接、航空・防空の 5 部門でしたが、戦後は原子力の平和研究の機運にそって原子力の基礎研究を指向した研究部門の再編成と拡張を進め、学内の理工系研究所の宇治キャンパスへの統合の先鞭をきって 1966 年に本部構内から宇治キャンパスに研究所を移転しました。そして 1971 年に原子エネルギー研究所に改組し、原子力と関連する工学分野で様々な基礎研究の成果をもたらしました。その後 1996 年 5 月 11 日に原子エネルギー研究所とヘリオトロン核融合研究センターを統合・改組してエネルギー理工学研究所 (IAE) が設立されました。IAE では、カーボンニュートラル社会を実現する次世代のエネルギーシステムの探求を目的に、



自然界の基本原理を探究して社会に応用する最先端のエネルギー科学技術の研究開発に挑戦しています。(図 B 参照)

冒頭の写真 A は、川端弥之助画伯寄贈の移転当時の工学研究所本館の油絵で、今も IAE の所長室の壁を飾っています。この 5 階建て鉄骨フレームの本館を斜め横から撮影した写真 C で、正面から描いた油絵では小さく見えますが、実際はこのように大きな姿でした。



写真 C

写真 C で松の木立つ中央から右方向に木材研究所、食糧科学研究所、防災研究所、左方向に化学研究所が相接して、次々に建設されて現在の鰻の寝床のような本館ビルとなり、5つの研究所の宇治キャンパスの教職員、学生の数が次第に増え、食堂や購買などのある生協会館も立てられ、喫茶室は5つの研究所にちなんでロシア語で「5」を意味する**ピアーチ**という名前が付けられました。宇治キャンパスの姿はその後増設や組織変更、耐震化工事で風景が変わっていますが、この本館の形態は現在まで基本的に継承されています。

シンビオ社会研究会の  
ホームページは [こちら](#) →



👉2005～2025 当会活動報告

次号 No. 11 発行予定：令和 6 年 1 月頃